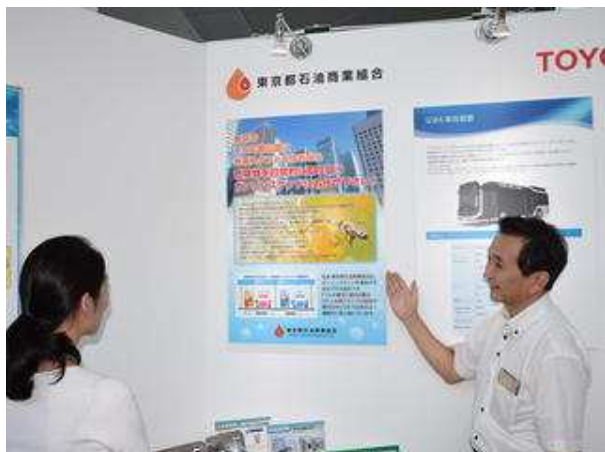


トップ > 記事 > ニュース > 関東 > 組織 > 東京スイソ推進チーム・羽田空港イベントブースでPR

関東・東京 組織 その他 自動車

2019年10月2日

## 東京スイソ推進チーム・羽田空港イベントブースでPR



都石パネルを説明する垣見副理事長（右）

東京石商（矢島幹也理事長）やJXTGエネルギー、自動車メーカー、東京都などで構成する「東京スイソ推進チーム」は9月16～20日、羽田空港・国際線と国内線の各イベントスペースにブースを設け、水素エネルギーを見える化するPRイベントを実施した。

家族型ロボット『LOVOT』がブース付近で空港利用者を出迎え、同石商などがパネルを掲出して各種取組を紹介したのをはじめ、純水素型燃料電池を活用したスマホ充電サービスで関心を高めた。

同石商のPRパネルでは、ガソリンスタンドの堅牢性や安全性をアピールしつつ「水素社会の普及に一番必要なのは規制緩和。規制をガソリン並み・灯油並みに緩和させれば、都心の250坪程度のGSで、灯油の代わりに水素を供給することも可能」、「水素スタンドとFCVの関係は、卵が先か鶏が先かではなく、“花とミツバチ”」、「東京石商は、FCV普及に絶対必要な水素スタンドとGSの併設が都内中小GSでできるよう、積極的に取り組んでいる」と説明。

17日には推進チームのメンバーで、パネル作成を監修した垣見裕司担当副理事長も視察に訪れ、「我々とトヨタの展示が並んで配置され、“花とミツバチ”の関係性が際立った」と評価した。